

夕 神 申

(第3種郵便物認可)

# 「寝耳に水」地元へ動揺

## 姫路工場は存続方針

### TV液晶、パナ撤退

31日に撤退が明らかになったパナソニック姫路工場（姫路市）でのテレビ用液晶パネル生産。今後は車載モニター向けなどのパネル生産を強化して「姫路工場は存続させる」（同社）という。ただ、生産量の大幅減は避けられず、地域経済への影響が懸念される。

（1面参照）

姫路工場は2010年、14年度には非テレビ用に。建設に当たり、県が総工費の3%を出していた。

同社は、県や地元自治体の誘致活動を受けて、当初、姫路市は稼働後10年で約140億円の税収を見込んでいた。

しかし、テレビ用パネルは韓国の大手サムスン電子などの台頭で採算が悪化。工場稼働後一度も黒字化でき

が、わずか10年ほどでテレビ向け事業を終了させることになった。

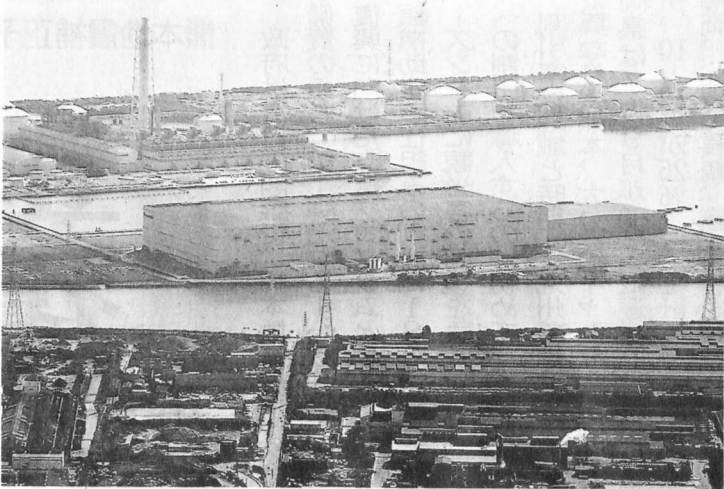
姫路工場では、期間

従業員を含め約千人が働いているが、同社は約100人の配置転換を決定。既に開始しており、県産業立地室は「今後の雇用状況や工場の稼働率などを注視する」と話す。

一方、姫路市は「液晶パネルの生産撤退

は「寝耳に水」と驚き、「業態を変えてでも事業を続けてもらいたい」とした。また、工場の地元、妻鹿連合自治会の篠原大典会長（75）は「工場で働く地元の人も多い。雇用はどうなるのか」と不安を漏らした。

（西井由比子、中務庸子、三島大一郎）



2010年に稼働したパナソニックの姫路工場。2015年3月、姫路市飾磨区

31日神夕

# パナ、TV液晶完全撤退

## 姫路の生産打ち切り

### 9月末にも

パナソニックがテレビ用液晶パネルの生産から完全撤退することが31日、分かった。中国や韓国など海外勢との競争が激しく、収益の改善が見込めなため、唯一の生産拠点である姫路工場(姫路市)での生産を9月末にも終える。

(8面に関連記事)

まず、赤字体質からの脱却が課題となってきた。今後もテレビ向け以外の液晶パネルの生産は続け、成長の期待で

きる車載モニターや医療機器向けなどを強化し、立て直しを図る。現在約千人いる姫路工場の従業員は、100人規模で自動車用の蓄電池工場などに配置

パナソニックの撤退で、国内で生産を続けるのはシャープだけになる。パナソニックの液晶テレビ事業は韓国メーカーなどからパネルの供給を受けており、これまで通り継続する。

しかし、大量生産を武器に低価格化を進めた中国などの海外メー

姫路工場は約235

0億円を投資し、20

10年に稼働した。生

産能力は主力の32型液

カーに押され、稼働率は低迷。工場の稼働後、一度も営業損益で黒字

を計上することができ

転換し、人員削減は行わない方針。

国内では、シャープが亀山工場(三重県亀山市)のほか、台湾の鴻海精密工業との合弁会社(堺市)でテレビ用液晶パネルを生産しているが、収益は低迷している。

# パナの液晶 赤字止まらず

## 高コスト体質 日本勢苦境

パナソニックがテレビ用の液晶パネルの生産から撤退する。液晶パネルはかつて、薄型テレビで一時代を築いた日本の電機大手を支える基幹部品だった。だが、低価格で大量につくれる海外勢に負け、縮小の一途をたどってきた。国内に残るシャープも液晶パネルは赤字で苦しむ。日本のパネル産業を取り巻く環境は厳しさを増している。

▼1面参照

### テレビ用パネルから撤退

パナソニックの姫路工場は2010年の稼働で、国内のテレビ用液晶パネル工場では後発だ。08年秋のリーマン・ショックでテレビの需要が落ち、稼働開始を遅らせた経緯がある。斜めからでも画面が見やすい液晶パネルでの先行メーカーとの差別化を図ったが、うまくいかなかった。テレビ事業の大赤字を受け、液晶パネルも中核事業から外れた。自動車の運転席周りや業務用モニターなど、テレビ用に代わる使い道を増やし、赤字体質の脱却を進める方針に切り替えた。

だが、テレビ用で赤字がとまらず、工場の稼働後、一度も営業損益が黒字になっていない。事業全体の足かせになるとみて撤退に踏み切ったとみられる。津賀一宏社長は3月末の記者会見で「テレビで(事業を)なんとかしていくのは現実的ではない」と話し、撤退を示唆していた。液晶テレビは、01年発売のシャープの「アクオス」を皮切りに、ブラウン管に代わる薄型テレビとして爆発的に世界に広まった。04年に稼働したシャープの亀山工場(三重県亀山市)は、国内の液晶パネル技術を囲い込み、日本から世界に輸出するモデルで一時代を築いた。工業製品としては当時珍しく地名をブランドに活用した。テレビの性能や生産コストを左右する液晶パネルの確保に他メーカーも躍起になった。

が表面化した。市場で安く調達できるようになり、自社生産にこだわる企業は、傷が深くなった。シャープも亀山工場のテレビ用パネルは大幅に縮小し、いまの主力はスマートフォンなどに使う中小型だ。堺市の堺工場(現・堺ディスプレイプロダクト)の大量の在庫はシャープの経営が傾く原因となった。台湾の鴻海精密工業からの出資を受け入れ、堺工場を共同運営に切り替えたのは経営への負担を軽くする狙いだった。液晶の次と言われる有機ELでも韓国のLG電子がテレビ用で既に世界展開する一方、開発に熱を上げていたソニーやパナソニックは14年夏に撤退している。(伊沢友之、新宅あゆみ)

**テレビ向けパネルの主な動き**  
 1998年 シャープの町田勝彦社長(当時)が「国内で販売するテレビを2005年までに液晶に置き換える」と宣言  
 2001年 シャープ、液晶カラーテレビ「アクオス」を発売  
 04年 ソニー、韓国サムスン電子と液晶パネル生産で合弁会社を設立  
 シャープ、亀山工場を稼働



05年 パナソニック、兵庫県尼崎市のプラズマパネル工場を稼働  
 09年 シャープ、堺工場(現堺ディスプレイプロダクト)を稼働  
 10年 パナソニック、兵庫県姫路市の液晶パネル工場を稼働



12年 ソニー、サムスン電子との合弁を解消  
 13年 パナソニック、プラズマパネルの生産終了  
 16年 パナソニック、テレビ用液晶パネルの生産から撤退

だが、低価格品をつくる韓国や中国勢が台頭する、日本勢の高コスト体質

# TVパネル完全撤退

パナソニックはテレビ用液晶パネルから撤退する。9月末をメドに姫路工場（兵庫県姫路市）での生産を終了し、従業員数百人を自動車の蓄電池工場などに配置転換する方針だ。激しい価格競争が続き、採算を確保できないと判断した。国内でテレビ用液晶パネルを生産するのは台湾・

## パナソニック

鴻海（ホンハイ）精密工業とシャープの連合の2工場だけになる。（関連記事14面）  
このほど生産終了の意向を複数の取引先に伝えた。同工場では期間従業員を含め約1千人が働いており、配置転換について近く労働組合と協議に入る。  
液晶パネル換算で生産能力は月産81万台。売上高は年800億円程度とみられる。船井電機など外部のメーカーに供給しているが、稼働率が落ち込んでいた。同工場は医療機器や車載モニター向けなどテレビ用

## 液晶の姫路生産 9月終了

以外の生産は続けるが、17年以降は生産量を4分の1程度に縮小する方向だ。すでに韓国メーカーからパネルの供給を受けている液晶テレビの販売は続ける。  
パナソニックは06年に茂原工場（千葉県茂原市）で液晶パネルの生産に乗り出した。韓国のサムスン電子やLGディスプレイ、台湾と中国のパネルメーカーなどが増産した影響で収益が悪化。12年に茂原工場の生産を終え姫路工場に集約してコスト低減を目指した

# TV液晶パナソニック撤退へ

## 国内生産、シャープ系のみ

パナソニックがテレビ用液晶パネルの生産から撤退する方針を固めたことが30日、わかった。赤字が続いているためで、9月末をメドに姫路工場（兵庫県姫路市）での生産をやめる。

同社が撤退すると、国内でテレビ用液晶パネルをつくるのはシャープ系のみとなる。

▼5面||赤字止まらず  
パナソニックは撤退の方針を既に取引先に伝えた模様

様だ。姫路工場で働く約1千人の従業員のうち、数百人は国内のほかの工場に配置転換する方向で検討している。

姫路工場は2010年4月に稼働を始めたが、赤字

## パナソニック、TVパネル完全撤退

# 収益優先 鮮明に

パナソニックがテレビ用液晶パネル事業から撤退する方針を固めた背景には、収益環境が厳しさを増していることがあ

る。世界経済の先行きに不透明感が強まり、パナソニックの2017年3月期は純利益が減少する見通し。19年3月期に連結売上高10兆円を目指す目標も撤回した。収益重視の姿勢を一段と鮮明にし、反転攻勢につなげる考えだ。（1面参照）

同社は13年3月期までの2年間に計1兆5000億円を超える最終赤字を出した。「聖域無き構



パナソニックのテレビ用液晶パネルの唯一の生産拠点だった姫路工場（兵庫県姫路市）

3月期は国際会計基準（IFRS）に移行するため単純比較できないが、前期をIFRSベースに置き換えると9%の最終減益となる見通しだ。  
津賀一宏社長は「環境変化への対応力に課題があった」と指摘した。むやみに規模拡大を追求するより、足元を再び固めて安定した成長を狙えるようにする考えだ。その第1弾がテレビ用液晶パ

続きで、12年3月期には765億円の営業赤字を計上した。コスト削減を図ったり、海外のテレビメーカーに液晶パネルを売ったりしたが、黒字転換までには至っていない。  
パナソニックは既に、国内で販売する自社の液晶テレビの多くで、海外の他社の液晶パネルを使う方針に切り替えている。今後は、鮮明な画像が要求される医師の手術用モニターや自動

車向けを中心に製造する。日本の電機大手は世界のテレビ販売で韓国・中国勢に押され、事業を縮小している。液晶パネルの生産もソニーが既に韓国サムスン電子との合弁会社を解消するなど、撤退が続く。国内では現在、シャープが亀山工場（三重県亀山市）のほか、堺市の鴻海精密工業との合弁会社でテレビ用の液晶パネルをつくっている。（新田哲史）

ネルからの撤退といえる。低収益事業はほかにも太陽光発電やパソコン用電池などがある。生産拠点の再編だけでなく、事業そのものの撤退も選択肢となりそうだ。